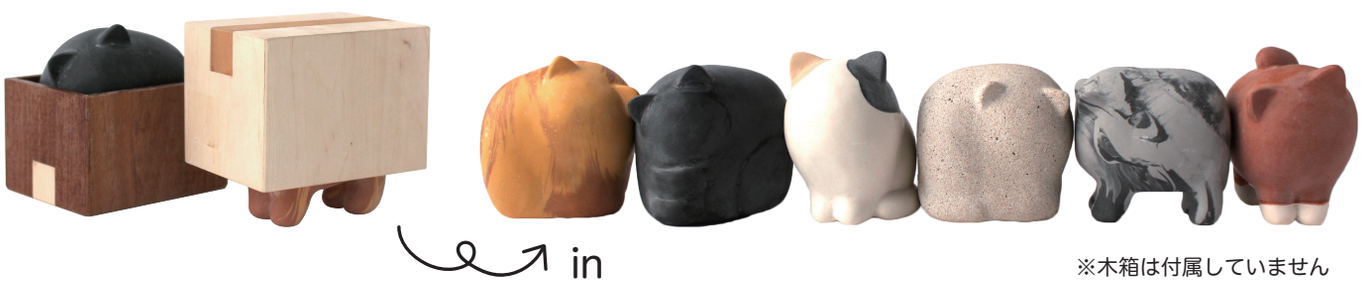
無印良品 相模大野ステーションスクエア店×女子美術大学 協業企画第1回

スクエニャ展

スクエニャとは？

スクエニャとは、殺処分されてしまった猫たちの魂がモチーフになっている小さな置物のようなアート作品。スクエニャという名前の由来は、猫たちの「救えにゃあ！」という叫び声と、猫たちが閉じ込められて処分されてしまうダンボールや、ガス室などの「四角い箱（Square）」です。



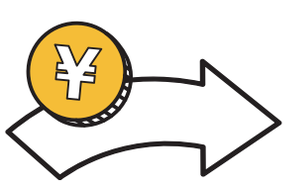
※木箱は付属していません

スクエニャを購入して保護団体に寄付しよう

スクエニャ１体購入ごとに、売上の半分が相模原市にある保護猫シェルター「たんぽぽの里 にゃんず」さんに寄付されます。ぜひ会場にお越しいただき、お気に入りのスクエニャを見つけて、お家にお迎えしてみませんか？

スクエニャを購入

販売予定価格：１体１万円
※木箱は付属していません



売上の 50%が
寄付される

保護活動費
として活用

たんぽぽの里については
裏面をご覧ください→

開催期間　8月23日（月）～9月23日（木・祝）

開催場所　無印良品 相模大野ステーションスクエア店
相模大野ステーションスクエアＢ館、４Ｆ

無印良品×女子美術大学

無印良品相模大野ステーションスクエア店と女子美術大学との協業について

■はじまり

はじまりは無印良品が掲げる「役にたつ」。
地域との関係を探る中で、アートの発信地・女子美術大学との交流が生まれた。
ディスカッションにて、思考の柔軟さ・多面的にモノをみる視点を学ぶ。お互いの良さを掛け合わせることで、地域の「役に立つ」発信ができるのではないかと考えた。

■協業について

現在、無印良品相模大野ステーションスクエアと女子美術大学で、デザインコンペやワークショップなど様々な内容の協業企画を検討中。第1回として、無印良品の思想と合致する、学生作品(卒業制作など)の展示会を開催。
第２、第3回と協業を継続し、地域の方々（女子美術大学）と地域のお客様をつなげ、地域の方々（保護猫団体様）の取り組みを発信することで、地域の方々と共に考え、地域の「役に立つ」発信ができるプラットフォームのような店舗を目指します。

「たんぽぽの里 にゃんず」さんの紹介

神奈川県相模原市に現在２つの保護猫シェルター（相模原・田名）、１つの病院（あだぷしょんぱぁく）を持つ動物保護団体。代表である石丸 雅代氏と60名を超えるボランティア、病院スタッフで運営されています。
たんぽぽの里として、2008年からは神奈川県動物愛護センターの登録ボランティアとして10年以上の活動、政令指定都市相模原市の登録ボランティア、さらに５年間の同市の協働事業実績があり現在の市の政策へ発展させるなど、殺処分ゼロを実現させ動物行政をリードかつ貢献中の動物保護団体です。
ホームページはこちらから→https://tanpopo-nyans.amebaownd.com

QRコードからもご覧いただけます

ホームページ　Twitter

※本展示で販売する「スクエニャ」は、あくまで女子美術大学卒業生の作品であり、今回寄付を行うたんぽぽの里さんと作品は一切関係ございません。作品に対する質問やお問い合わせはたんぽぽの里さんでは受け付けておりませんので十分ご留意ください。